

授業のテーマ：

グリムの童話と伝説を民間説話の東西交流の視点から考察

授業の概要：

前期にはグリム童話の『幸せハンス』と『貧乏人と金持ち』を、後期にはグリムの伝説『橋の上の宝の夢』を取り上げ、日本の昔話や伝説と比較しながら、考察する。

伝承民話には伝承社会の民俗文化、宗教文化、民衆の思想が反映しており、子どもたちに異文化を理解させるには適切な学習素材である。

学習の到達目標：

まず伝承民話の比較研究法と物語素材の検索方法のノウハウを学ぶ。続いて受講生の運用できる言語（日本語、英語、ドイツ語、漢文など）能力に応じて原語によるテキストの読解演習を分担する。最後にその比較考察を通して、伝承文化の交流を跡づけたい。

授業計画：

(前期)

1. 伝承民話の比較研究法：地理歴史的研究法（柳田國男『日本昔話名彙』・関敬吾『日本昔話大成』・稲田浩二/小澤俊夫『日本昔話通観』・アアルネ＝トンプソン＝ウター『民間説話のタイプ』）
2. 物語素材の検索方法：図書館での文献検索、インターネットによるコーパスの検索
3. グリム童話『幸せハンス』とアンデルセン童話『父さんのすることはいつもよし』
4. 日本の昔話『藁しべ長者』（日）
5. この話の考察：賭けのあるなし。富のあるなし。グリム童話の特異性。
6. グリム童話『貧乏人と金持ち』とヘーベル暦物語『三つの願い』（独）
7. ジェイコブス『三つの願い』（英）とペロー童話『愚かな願い事』（仏）
8. アラビアン・ナイト『聖断の夜に願いをかけた男の話』（中東）
9. 日本の昔話『三つのかなえごと』
10. この話の考察：起源と東西交流・伝播の問題、ジャンル変遷：艶笑譚→笑い話→聖者伝

(後期)

1. 日本の昔話『味噌買橋』（日本語テキストの講読）
2. イギリスの昔話『スウォファムの行商人』（英文テキストの講読）
3. グリムの伝説『橋の上の宝の夢』（独語テキストの講読）
4. チェコの聖者伝『プラハの橋の上の宝』、オランダの昔話『ドルトレヒトの宝の夢』
5. アラビアの千一夜物語・第351夜『貧乏してのち、また金持ちとなった人の話』
6. 国際話型「宝はわが家に」のヨーロッパ系とオリエント系の特徴
7. 日本の昔話『味噌買橋』の起源
8. 柳田國男編『新しい国語』中学1年生（1962, 1966）の教材事例
9. 各自、好きな伝承民話の比較素材を提示し、比較考察し、レポートとして提出

評価方法：

- | | |
|---------------------------------|----------|
| (1) 授業への取り組み姿勢（毎回の授業カードに感想等を記入） | 評価割合：30% |
| (2) テキスト分担購読 | 評価割合：30% |
| (3) レポート | 評価割合：40% |

テキスト：

テキスト：竹原威滋著『グリム童話と近代メルヘン』（三弥井書店） 2700円＋税
参考文献リストは、竹原のホームページにて公開している。

<http://web1.kcn.jp/takehara-folklore/bunken1.htm>

備考：

授業は講義方式であるが、演習方式も採り入れるので、学生諸君の積極的な参加を望む。